

鈴木 均著

『現代イランの農村都市』 — 革命・戦争と地方社会の変容 —

勁草書房



イランが革命後農業を重視し、農村開発を優先したことによってイラン農業が急速な発展を遂げたことはよく知られている事実である。

しかしその結果、イランの農村社会がいかに変化してきたのかという点についての研究成果は、ほとんどないに等しい。しかも、同時代に採られた人口増加奨励策や農地改革等の政策、対イラク戦争のような歴史的出来事も、必然的にイランの農村社会に多大な影響を与えているはずであるが、その観点からの研究もほぼ欠落している。鈴木均氏の『現代イランの農村都市』は、革命以降に全国的に出現してきた「農村都市」（ペルシア語で「ルースター・シャフル」）の形成過程と現状を調査・分析することを通じて、この空白を補おうとしている。筆者は、革命後に急増した人口数から数万人規模の農村部中小都市のなかで、人口二〇〇〇〜二万の大規模農村ないし小都市を「ルースター・シャフル」として再定義している。「ルースター・シャフル」を革命後のイラン

において特徴的な現象としてとらえる筆者は、それらの形成過程と実情を把握するために一六九カ所でフィールドワーク調査を行い、得られた情報とその分析を本書にまとめた。

第一章では、主要な先行研究の紹介やイラン近代史の概要とともに調査方法が提示される。第二章では、「ルースター・シャフル」を形成要因を軸に地域横断的に類型化し、それぞれのタイプの「ルースター・シャフル」の出現に「全国的傾向」がみられるか、「地方的偏差」がみられるか、検討を加えている。さらに調査で得られた情報をもとに、人口流動性と社会構成、水事情、産業・経済、行政・社会インフラおよび歴史と交通・流通といった調査項目ごとに、一六〇余の町村の横断的な特徴と性格を描き出している。

第三章から第五章では、全国的に分散しているなどいくつかの条件に合う三地域—カ所の典型的な「ルースター・シャフル」を選定し、各々の地域に複数回滞在して調査を進めた結果

を提示している。これらの章では各地域の全体像と特徴が描かれ、さらに各「ルースター・シャフル」の人口動態と社会構成など各調査項目において居住者の「生の声」が叙述されている。筆者も指摘しているように、この「生の声」にはあるいは不完全な情報も含まれているかもしれない。しかし、各「ルースター・シャフル」の住民は、農村の都市化の問題、他の農村との統合、シヨウラー（地方議会）の含意、行政に対する評価や期待、人口流入や流出（特に若年層の移住）、失業の問題、人口調整政策、女性の結婚問題、女子教育の問題、女性の政治参加等々、具体的に生活に密着する各課題について自らの認識を率直に述べているため、当事者である住民が地方社会の変化（都市化）をどのように受け止めているかをもうかがい知ることができる。

第六章（結論）では「ルースター・シャフル」の形成について、政府によるインフラの整備が不可欠な要因であったが、イラク戦争のために生じた人口の移動も結果として貢献したと結論づけている。さらに地方住民の間に「都市的生活スタイル」が急速に浸透した結果、かつて典型的だった農村風景は極めて少なくなっていると指摘している。

一方、本書からは、「ルースター・シャフル」の今後の持続的かつ内発的發展を妨げかねない要因があることも読み取れる。その要因とは、本書において筆者も指摘しているように、水不足の問題であり、また土地なし住民の問題

である。今後の地方農村社会の経済と雇用を支えるには、新しい産業の育成が必要不可欠である。新しい産業としては、様々なサービス産業も考えられるが、地方小都市にさらなる発展の機会をもたらすには、やはり住民自身も切望しているように「工場の建設」（工業の発展）が重要であろう。また、本書に登場するヴァランケシユの女性のように、起業家精神をもつ人物が実際に起業活動にチャレンジし、成功するためには、政府の支援が求められる。さらに、シヨウラーは、農村社会において非常に重要な役割を果たしているが、今後これが形骸化しないためには、財源移譲を伴う地方分権の推進が必要不可欠であることも、本書からは読み取れる。

本書は筆者の丹念なフィールドワーク調査を前提とする労作であり、革命後のイラン地方社会変化の研究において存在してきた空白を補うことに大きく貢献している。地主の姿はずでに地方社会から消え去り、革命政府（中央）が積極的に地方の開発に力を入れるようになるなか、イランの地方において象徴的な存在だった閉鎖的な農村が、流動性に富む中小農村都市に主役の座を譲った過程は本書で明らかにされている。この発見を高く評価しなければならぬ。ただ、自治意識を高めたがら政治的発言を増してきた地方の新しい主体と中央権力との関係については、今後さらなる考察が必要であろう。（Keivan Abdoly / イラン研究者）